

学習指導要領		都立南平高校 学カスタンダード
<p>(1) 世界史への扉</p> <p>自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。</p>	<p>西アジアの地理的特質とオリエント文明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエント文明の発達の仕組みを西アジアの地理的特質や灌漑農業の発達、政治権力の確立から説明できる。 ・メソポタミアとオリエントにおける古代文明の発生と発達の歴史的過程を比較し、それぞれの特色を理解する。 <p>[イランの動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アッシリアとアケメネス（アカイメネス）朝の統治方法について政治体制、経済政策、異民族の支配などの観点から理解する。 <p>[地中海世界の地理的特質と古代ギリシア・ローマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代地中海世界の文明圏が成立した背景を地政学的に理解する。 ・古代ギリシアポリスの代表例アテネとスパルタを比較して説明できる。 ・アテネと現代の民主政の特徴を比較し、ポリス社会の衰退原因を説明できる。 ・ギリシア文化とヘレニズム文化の特徴について具体的事例を通じて説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ローマ法が市民法から万民法に発展する過程についてローマ市民権の拡大という観点から理解する。 ・キリスト教の容認と国教化、公会議による正統教義の統一、ローマ帝国の統治理念の確立について理解する。 	
<p>(2) 諸地域世界の形成</p> <p>人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>[地中海世界の地理的特質と古代ギリシア・ローマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代地中海世界の文明圏が成立した背景を地政学的に理解する。 ・古代ギリシアポリスの代表例アテネとスパルタを比較して説明できる。 ・アテネと現代の民主政の特徴を比較し、ポリス社会の衰退原因を説明できる。 ・ギリシア文化とヘレニズム文化の特徴について具体的事例を通じて説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ローマ法が市民法から万民法に発展する過程についてローマ市民権の拡大という観点から理解する。 ・キリスト教の容認と国教化、公会議による正統教義の統一、ローマ帝国の統治理念の確立について理解する。 	

学習指導要領	都立南平高校 学カスタンダード
<p>イ 南アジア世界・東南アジア世界 南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>エ 時間軸からみる諸地域世界 主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p>	<p>〔南アジアの地理的特質〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アジアの複雑な身分制度と民族の分布が成立した歴史的経緯を理解する。 <p>〔インダス文明〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インダス文明が都市文明であったことを具体的な事例を挙げながら説明できる。 <p>〔アーリヤ人の移住以降の南アジア文化、社会、国家の発展〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マウリア朝とクシャーナ朝の展開、ガンダーラ美術とグプタ様式の違い、インド文化がイスラーム世界に与えた影響について説明できる。 ・ヒンドゥー教がインドの社会に定着していった歴史的背景を説明できる。 ・仏教の成立と衰退の歴史的過程を理解する。 <p>〔東南アジアの地理的特質と国家形成〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インド洋の季節風交易の活発化と港市国家の発展について具体的な事例を挙げながら説明できる。 ・東南アジアにインド文明や中国文明が受容された歴史的経過を説明できる。 <p>〔東アジアの地理的特質〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊牧民の中国農村地帯への侵入が東アジアの国家形成と民族移動に影響を及ぼしたことを理解する。 <p>〔中国文明の起源と秦・漢帝国〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殷と周の支配体制の特徴と相違点を説明できる。 ・春秋戦国時代の社会的変動の様子を具体的な事例を挙げて説明できる。 ・秦漢帝国が東アジアの冊封体制の基盤を形成したことを理解する。 <p>〔内陸アジアの地理的特質と遊牧国家の動向〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国周辺の遊牧国家の興亡を説明できる。 ・前漢の高祖と武帝の外交政策の違いを匈奴への対応から説明できる。 ・オアシスの道が形成され、中国と西方世界をつなぐ交易路として発展していくことを理解する。 ・江南の開発の歴史的意義について説明できる。

学習指導要領	都立南平高校 学カスタンダード
<p>ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p>	<p>[唐の成立と東アジア諸民族の動向] <ul style="list-style-type: none"> 唐末期の混乱の中で中国社会が大きく変容することを理解する。 東アジア文化圏を構成する諸地域の共通性と独自性を具体的事例から説明できる。 日本が遣隋使・遣唐使を派遣し、中国文化を学ぶとともに律令制を導入したことを説明できる。 </p> <p>[アラブ人とイスラーム帝国の発展] <ul style="list-style-type: none"> 6世紀後半以降のアラビア半島の経済的重要性を周辺国家の情勢から説明できる。 アッバース朝が「イスラーム帝国」と呼ばれる理由をウマイヤ朝との比較から理解する。 イスラーム世界の中心がバグダードからカイロに移動した背景について理解する。 </p> <p>[トルコ系民族の移動] <ul style="list-style-type: none"> 中央アジアのトルコ系民族の移動がイスラーム世界に及ぼした影響について理解する。 </p> <p>[アフリカ・南アジアのイスラーム化] <ul style="list-style-type: none"> イスラームの拡大にムスリム商人のネットワークやスーフィズムが果たした役割を説明できる。 </p> <p>[イスラーム文明] <ul style="list-style-type: none"> イスラーム文明が中国・インド・イランなど諸地域の文化を受容し、改良しながらヨーロッパに伝達したことを理解する。 </p>

学習指導要領		都立南平高校 学カスタンダード
<p>(3) 諸地域世界の交流と再編</p>	<p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p>	<p>[ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビザンツ帝国の統治体制の特色を西ヨーロッパ世界との比較を通じて理解する。 ・スラヴ系民族の移動が東ヨーロッパ世界に及ぼした影響について理解する。 <p>[西ヨーロッパ封建制の成立と変動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランク王国とローマ教会の提携の歴史的意義を理解するとともに古代の地中海世界が西ヨーロッパ世界・東ヨーロッパ世界・イスラーム世界に分立していく歴史的経過を理解する。 ・イスラーム勢力・マジャール人・ノルマン人の移動が封建社会の形成に与えた影響を理解する。 ・教皇権の興隆と衰退の過程について具体的事例を挙げて説明できる。 ・貨幣経済の浸透が封建社会の変容と国王による中央集権化に与えた影響について理解する。 <p>[キリスト教とヨーロッパ世界の形成と発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギリシア語文献やアラビア語文献がラテン語に翻訳され、12世紀ルネサンスに影響を与えたことを説明できる。

学習指導要領	都立南平高校 学カスタンダード
<p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p> <p>エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とその中で日本の位置付けを理解させる。</p>	<p>[内陸アジアの諸民族と中華世界の興亡]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タラス河畔の戦いと製紙法のイスラーム世界への伝播について説明できる。 ・契丹や女真と北魏の違いについて把握する。 ・唐宋変革期の中国社会の大変動と支配者層の交代について理解する。 ・宋の成立と周辺諸国の国際情勢の変化について把握する。 ・宋代と唐代の都市を比較し、その変化について理解する。 ・官学になった朱子学が朝鮮半島や日本にどのように受容されたかについて理解する。 <p>[モンゴル帝国の興亡とユーラシア大陸諸地域]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル帝国の軍事基盤となった千戸制について理解する。 ・モンゴルの貨幣や紙幣の特徴と元の衰退原因を理解する。 ・モンゴル帝国の支配下における陸上及び海上の東西交流について説明できる。 ・モンゴル帝国の興亡が東アジア、東南アジア世界の再編に与えた影響について理解する。 <p>西アジア・南アジアのイスラーム勢力の興亡と東南アジア海域の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ティムール朝のもとでのトルコ＝イスラーム文化の発展について理解する。 ・オスマン帝国の多民族支配についてその統治構造を把握する。 ・銀を媒介としたアジア内交易の拡大について理解する。 <p>[明清帝国と朝鮮半島、日本の国際関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際商業の活発化が明の商工業や社会に与えた影響について理解する。 ・明末期、清初期においてイエズス会の宣教師が果たした役割と中国の文化がヨーロッパに与えた影響について理解する。

学習指導要領		都立南平高校 学カスタンダード
(4) 諸地域世界の結合と変容	<p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p>	<p>[ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルネサンスが近代的側面、中世的側面、貴族的性格について理解する。 ・カルヴァン派が商工業者に受け入れられた背景について理解する。 ・ハプスブルク家とフランス王家の対立を軸にヨーロッパ主権国家体制の形成と展開について理解する。
	<p>ウ 産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。</p>	<p>[大西洋世界の形成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業革命の結果、東西ヨーロッパにおける分業体制が形成されたことを把握する。 ・ヨーロッパの戦争と英仏の植民地争奪戦の関連性について把握する。 ・大西洋世界に形成された大陸間での分業体制が西ヨーロッパ、アメリカ、西アフリカなどの諸地域に与えた影響について理解する。 <p>[17～18世紀のヨーロッパ文化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代的合理思想や自然科学の発達がその後のヨーロッパ社会にもたらした影響について理解する。 <p>[アメリカ独立革命とフランス革命]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ独立革命がフランス革命やラテンアメリカ諸国の独立に与えた影響について理解する。 ・フランス革命の指導層の変遷を把握する。 ・ナポレオン戦争がヨーロッパ諸国のナショナリズムの発生に対してどのような影響をもたらしたのかについて理解する。 ・ウィーン体制にメッテルニヒの勢力均衡外交が国際秩序に果たした役割について理解する。 <p>[19世紀アメリカとヨーロッパの政治的・経済的変化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン体制下におけるイギリスとロシアがとった対外政策について理解する。 ・1848年革命の限界と東西ヨーロッパの違いについて理解する。 ・クリミア戦争の歴史的意義について理解する。

学習指導要領	都立南平高校 学カスタンダード
<p>エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とその中で日本の位置付けを理解させる。</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリアとドイツの統一をもたらしたヨーロッパの国際情勢の変化について理解する。 ・アメリカ合衆国の領土拡大と先住民・黒人奴隷・移民問題について理解する。 <p>[世界市場の形成とヨーロッパ列強のアジア進出]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウエスタンインパクトを受けたアジア諸国の社会の変容について具体的な事例を挙げながら説明できる。 <p>[オスマン帝国、ムガル帝国、清、日本などのアジア諸国の変容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パン＝イスラーム主義がムスリムの結束に与えた影響について理解する。 ・オスマン帝国のタンジマートが外国資本に対する従属を招いたことを理解する。 ・イギリスのインド支配の特徴や土地政策とインドの村落社会解体の関連性について理解する。 ・タイが独立を維持した背景について理解する。 ・中国の伝統的な朝貢貿易が自由貿易を求めるイギリスと対立を招いたことを把握できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・太平天国が勢力を拡大した社会的背景を理解する。 ・清の洋務運動と日本の明治政府の殖産興業政策を比較し、その相違点を理解する。 ・日清戦争の結果がその後の東アジアの国際秩序に与えた影響について理解する。

学習指導要領	都立南平高校 学カスタンダード
<p>科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p>	<p>[科学技術の発達と企業の巨大化] ・第二次産業革命の進展が欧米列強の帝国主義的対立を生んだ経緯を説明できる。</p> <p>[帝国主義的抗争とアジア、アフリカの対応] ・欧米列強の対立が激化する中でイギリスとドイツを中心とする二つの勢力が形成されたことを把握する。 ・アジア・アフリカ諸国のナショナリズム的な抵抗運動の発生と近代化へ向けた運動の限界について理解する。 ・日露戦争の意義を抵抗主義列強間の対立とアジア・アフリカの民族運動への影響という視点から理解する。</p> <p>[移民の増加] ・増加する移民と各地で発生した差別問題について理解する。</p> <p>[第一次世界大戦] ・第一次世界がもたらした政治・経済・社会の変化について理解する。</p> <p>[ロシア革命とソ連の成立] ・二月革命と十月革命の相違点を理解する。</p> <p>[両大戦間における大衆社会の出現とファシズム] ・ドイツの賠償金問題の変遷について理解する。 ・1920年代のアメリカの繁栄と保守的傾向について理解する。 ・ファシズム勢力が大衆の支持を受けるようになった背景についてヴェルサイユ体制や当時の経済情勢から理解する。</p> <p>[第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢] ・民族運動の中から第二次世界大戦後の独立運動の指導者が出現したことを具体的事例から挙げて説明できる。</p>

学習指導要領	都立南平高校 学カスタンダード
<p>ウ 米ソ冷戦と第三世界</p> <p>米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から 1960 年代までの世界の動向について考察させる。</p>	<p>[世界恐慌の発生と世界情勢の変化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック経済政策の背景と世界各国に与えた影響について理解する。 ・日本における軍部の台頭と軍事独裁体制の成立、イタリアのファシズム、ドイツのナチズムの動きを理解する。 ・スターリンの個人崇拜と独裁の背景を理解する。 <p>[第二次世界大戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独ソ不可侵条約と日ソ中立条約が第二次世界大戦にもたらした影響について理解する。 ・1941 年の独ソ戦と太平洋戦争の発生が世界的規模の戦争に拡大したことを理解する。 ・第二次世界大戦の複合的性格を理解する。 <p>[アメリカの覇権と戦後の国際秩序]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国が政治・経済の両面で戦後国際秩序の形成に積極的にかかわったことを説明できる。 ・アメリカを中心とした資本主義陣営とソ連中心の社会主義陣営が展開されたことを具体的な事例を挙げながら説明できる。 <p>[南アジア・東南アジアの独立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア各地で民族運動が急成長し、独立運動が展開したことを具体的な事例を挙げながら説明できる。 <p>[中華人民共和国の成立]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の降伏後、国共内戦に勝利した共産党を中心に中華人民共和国が建国されたことを理解する。 ・朝鮮戦争で東西対立の構図が明確化したことや日本がアメリカ陣営で戦後の復興を目指したことを理解する。 <p>[東欧の動乱]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スターリン没後の平和共存政策で東欧諸国内部に自由化の動きがみられたが、ハンガリーとポーランドでは、異なる展開をたどったことを理解する。

	学習指導要領	都立南平高校 学カスタンダード
<p>(5) 地球世界の到来</p>		<p>[キューバ革命とキューバ危機]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キューバ革命後の歴史的経過によって東西対立が再び緊張をもたらしたことを理解する。 <p>[世界の多極化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西欧と日本の高度経済成長によって世界経済の中心に変化が生じ始めたことを理解する。 ・第三勢力が独立後、連帯し、国際社会での発言力を高めたことを把握する。 ・南北問題の発生によって国際分業体制の不平等が明確化したことを理解する。 ・パレスチナにイスラエルが建国され、アラブとイスラエルとの紛争が始まり、アラブ民族主義が高揚したことを把握する。 ・中ソ対立が発生し、米中接近が行われたことを理解する。 <p>[米ソ二極時代の終焉]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1960年代前半のアメリカ合衆国で公民権運動が拡大したことを理解する。 ・ベトナム戦争によってアメリカの覇権が動揺したことを把握する。 ・第4次中東戦争でアラブ諸国が団結し、石油戦略を発動したため先進国の経済に打撃がもたらされたことを把握する。 ・1960年代、ソ連と東欧の社会主義諸国で経済的不振が深刻になったことを理解する。 ・東アジア諸国間では、経済格差も見られたが、全体的に工業化や現代化が進行したことを把握する。 ・ベトナム戦争後、インドシナ半島で混乱が生じたが、中国やベトナムは市場経済の導入で克服しようとしたことを理解する。 ・独裁政権や軍事政権の専制的政治が継続したラテンアメリカや白人の少数支配が続いたアフリカ南部で変化が見られたことを把握する ・中東を中心にイスラーム復興主義運動が拡大し、イラン＝イスラーム革命が発生したことを考察する。

学習指導要領	都立南平高校 学カスタンダード
<p>エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p> <p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>[東欧社会主義圏の解体と国際秩序の変容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソ連の改革が東欧の社会主義国に波及し、1989年に東欧革命が発生したことを具体的な事例を挙げて考察する。 ・東欧社会主義諸国の民主化がソ連の解体を促したことを把握する。 ・旧社会主義諸国で冷戦時代に抑え込まれていた民族対立が発生したことを具体的な事例を通じて考察する。 ・ソ連の解体後、軍事超大国となったアメリカが中東への介入を強めたことを理解する。 ・中国が急速な経済成長を遂げ、大国になったが、貧富の格差拡大などの社会問題も深刻になったことを理解する。 ・1990年代以降、経済競争が激化するにつれて新たな地域協力の在り方が模索されるようになったことを理解する。 ・21世紀になるとグローバル化を反映して世界同時不況が拡大する一方で低開発国の発展も見られたことを把握する。 ・民族・宗教紛争やテロ問題などの国際的広がりから国連や大国の影響力が低下したことを把握する。 <p>[グローバル化の動きと世界の変化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化とその課題について具体的な事例を通じて考察する。 ・グローバル化が文化面にも波及し、文化が人類の共通財産になる一方で文化の多様性が希薄化する問題も発生していることを把握する。 ・グローバル化を克服しつつ核兵器廃絶や環境問題地域紛争などにどのように向き合うか考察する。 ・公正で平和な地球社会の創造には、自然科学を学ぶことに加えて歴史学などの人文科学分野の知識も重要であることも認識する。 <p>[資料を活用し、探究する地球規模の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代における地球規模の課題について歴史的観点から資料を活用しながら探究し、これからの世界と日本の在り方や持続可能な社会実現に向けた展望について考える。